

平成23年8月23日定例経営会議（要約）

（平成23年8月23日 午前9時30分～11時30分）

新たな創造 変化に対応

I 開会 ～ 市長あいさつ

議会直前の経営会議である。各部長におかれては、市政推進に尽力いただき感謝する。前回以降の動きについて報告する。

11日、今年度のインディペンデンス市を訪問した当市の学生派遣団の報告会があった。全員無事に帰国し、たいへん有意義な経験をしてきたとのことによかったと思っている。残念なことに、震災と原発事故等により、インディペンデンス市から当市への学生派遣は今回取り止めとなった。

16日は、今年度初の環境審議会が開催された。環境基本計画が策定され、今後の進捗管理をすることが今期の環境審の役割になる。放射能の問題が新たな課題となりかなり長期化しそうである。今後避けて通れない問題として、市の環境行政にどのように位置づけていくか。市は放射能問題について、市民に対しどのように専門性を持って裏付けし説明していくかが大きな課題である。全庁的に英知を結集して立ち向かわなければならない。

19日は、第4次総合計画が始動してから初の総合計画審議会が開催された。今後の審議会の役割として、第4次総合計画の進捗管理・評価を中心に審議していただくことをお願いした。管理・評価のツールとして、目標管理や毎年度のローリングについて論議していただいた。目標管理については「できるだけ計量化できるような数値目標を掲げなければ、本当に達成されたのかどうかがわからない」という意見が数多く出された。来年度以降どのように進めるかについて、時間を取って協議させていただきたい。

20日（土）、市民センターでタウンミーティングを行った。今回は、夏休み特集として中高生を対象に行い、中高合わせて36名、各校の校長も出席された。日体桜華の12名と学校長の小林節先生も来てくださった。小林先生は慶応大学の憲法学者で弁護士資格も持っている方である。10年ほど前まではよく「朝まで生テレビ」にも出演し、田原総一郎と激論を交わしておられた有名な方であるが、縁あって昨年4月に日体桜華の学校長として赴任された。私も何度がお会いしたことがあるが、日本の未来を非常に憂いておられ、「やはり高校生くらいからしっかり育てたい」という熱意で真剣に取り組んでおられる。「地元の東村山市ともできるだけ連携を取っていきたい」とのことで、次々回の富士見町のタウンミーティングにもご参加いただけそうなお話だった。当市には大学がないが、市内の私立高校とも連携が深まることに期待したい。今回は中高生が対象で、いつもとは勝手が違い緊張した。言葉を選びながら話したので歯切れが悪く、あまり無碍にもできない、夢も壊せない、しかし無い袖は振れないという、微妙な答弁だったかもしれない。中学生からは部活の備品、学校施設について、いくつか意見があった。出されたことを紹介する。

- ・部活の予算を増やしてほしい：各学校の備品購入費を増やすように、特に中学生から強く出された。4中では吹奏楽部の部員がまとまって参加し、15年以上の楽器をなんとかかしてほしい。3中では体育会系だったが、バレーボールやテニスのネットが穴だらけ、鉄柱がボロボロで、ボール等も劣化しているの、何とかしてほしいとのことである。
- ・江戸街道等の一部で歩道が設置されていない：西高の生徒で、自転車通学が多いそうである。
- ・中央公園や緑道があり緑が多いが、不審者も多く出る地域なので、街路灯を整備してほしい：西高の女子生徒からの意見である。公園内やサイクリングロードは都の管轄だが、木に隠れてしまい光が当たらないので、手入れをしてほしいとの意見であった。

高校生は視点が違うと感じたが、「放射能は大丈夫なのか」「待機児解消はどのように進めるのか」「今後の東村山市における高齢福祉をどのように充実させるのか」等の意見は全て女子からであった。非常に高い視野と鋭い視点を持って、身の回りだけでなく社会的な関心を持つ生徒が多いと感じた。各課に出た意見を回すので、できるかぎり対応するようお願いする。

30日まで、いきいきプラザ1階で「核兵器廃絶と平和展」を開催している。今回は、原発事故発生後の核兵器廃絶展である。武力としての兵器と電力としての平和利用の違いはあるが、あらためて核や放射能の問題に関心が高まっており、多くの市民の来場があるだろう。ぜひ職員にも見ていただきたい。

13日(土)から15日(月)まで、2回目の夏休みをいただいた。今回は、阪神淡路大震災で被災した兵庫県神戸市に行った。神戸のまちなかも震災時は瓦礫一面だったが、震災の傷跡はもう素人目には全くわからない。一部、兵庫県も神戸市も意図的に震災の跡を残しているところが港などにいくつかあるが、被災後の復興をどのように行ったのか、気になった2~3か所回った。ひとつは兵庫区松本地区である。狭隘道路と木造住宅の密集地で以前から危険視されていた地域で、震災で一帯が丸焼けになった。その後の復興都市区画整理事業の計画が持ち上がった時に、住民から「せっかく道路を拡げるならば、せせらぎの小川をつくったらどうか」という意見が出され、“せせらぎ歩道”がつけられ、平成14年度の国土交通省の景観大賞を受賞した有名どころである。現在も住民が手入れをしていて、私が訪れた頃も藻を刈り取り積み上げていた。当初からそれほどの水量があるわけではないが、そのような機能よりもむしろ、地域にすむ皆で手入れを続けることで復興とコミュニティの醸成に役立っている。もうひとつは新長田駅前、火事で広大に丸焼けになった地域である。もともと駅前再開発事業を行っていたところも焼けてしまい、その一帯を組み込み、相当広範囲な市街地再開発事業を行った。高層マンションが20棟以上建ち、一部には大きな商業施設もできた。横山光輝氏の出身地なので、駅前の公園には鉄人28号の8mの等身大の像があり、また「三国志」でまちおこしをしている。神戸市は、震災後わずか2か月で復興のための都市計画決定を行った。それ故に円滑に進んだ地区と、

住民が避難所にいるうちに強行に線引きしたと揉めた地区がある。長田では大規模な開発となったため、昨年くらいまで事業を行っていたという、あまりうまく進まなかった例である。松本のように最初から住民が参加してまちづくり協議会を作った地区は、スムーズに進んで短期間で事業ができた。やはりまちの構造が個々の住民の生活構造にうまく繋がるような形にならなければ、うまくいかないのかもしれないと痛感した。平常時から市民主体の地域づくり・まちづくりを進めることが重要である。現在では市民参加による避難所開設訓練を行ったり、模擬都市復興計画策定を行ったりしている自治体もある。今後、自治基本条例の策定と併せて、実際に活動する住民自治協議会を市内に構築していきたいと感じた。これらについても今後、検討させていただきたい。

II 協議事項

(1) 人事評価制度について

4部会議でまとめた内容を報告し、経営会議としての集約とする。

①実施時期について

給与反映は、総務部作成の原案どおり、管理監督職については24年度から実施する。今年度実施の人事評価では、給与反映をしない主任・主事職は絶対評価とする。

②業績評価について

管理職は目標管理、監督職以下は担当業務を遂行した結果を仕事の成果として評価する。24年度は原案通り重点業務の結果で行う。

③給与反映への配分について

原案どおりとする。

④最終評価者について

監督職以下の一般職は、各部長が責任を持って第2次評価について相対評価を行う。人事異動・昇任等の人事管理を実施する所管として、総務部長が最終評価者となる。各部長の2次評価を次長が評価補助者として補助する。

⑤励ます制度とすることについて

人事評価制度は、「職員を励ます制度」として職員のモチベーションを上げる狙いから、給与反映を行う課長補佐・係長職の職場面接を年3回実施する。組織マネジメントツールとして機能させるために、1次評価の根拠として職務行動記録を2次評価者に引き継ぐ。

⑥監督職以下一般職の評価段階について

5段階評価とする。

(2) 組織機構の検証について

平成24年度に向けた各部内で課のあり方について出されている課題と、部をまたがる

課題がある。部をまたがる課題は、理事者で方向性を検討し、関係部長とも協議する。課の内容については、各部長が考え方を出し、それを踏まえて協議することとする。各部長は、課題を整理し2週間後に人事課宛にメールで提出することとする。

Ⅲ 報告事項

(1) 業務指示書における確認事項について

各部における調査結果を報告した結果、一部の業務において指示書や業務依頼書等を活用している。こうした業務指示書の必要性については別途協議することとし、再確認については人事課へ報告する。

(2) 東村山駅周辺まちづくりについて

東村山駅周辺まちづくり基本構想の方向性について、9月1日市報で市民にお知らせする。6月に連続立体や3・4・10号線、それに伴う付属街路等、都市計画素案の説明を行った。今回、素案の「素」が取れて「案」という形で、秋に説明会を行う。東村山駅付近の連続立体交差化事業と、3・4・10号線は東京都が都市計画決定の手続きを行う。3・4・29号線と他の都市計画道路、鉄道付属街路は市が手続きを行う。案の内容は素案と変わっていない。

Ⅳ その他

(1) 総合震災訓練について

8月27日(土)に、総合震災訓練を実施する。本年度の訓練は、これまで行っていた内容を大きく見直し、大岱小学校で市民を対象に、「まちなか訓練」を行い、さらに、市役所においても職員及び関係機関による災害対策本部の運営訓練などを行う。訓練想定は、8時30分に震度6弱の多摩直下地震が発生し、東村山市においても大規模な火災の発生とともにライフラインに甚大な被害が生じたこととし、市民には、地域内のいっとき集合場所へ避難していただき、初期消火・救出救護・応急救護訓練等を行い、併せて大岱小学校までの避難誘導訓練、避難所開設訓練に参加していただく。また、災害対策本部運営訓練では、東日本大震災の際の当市の対応を踏まえ、マルチメディアホールに対策本部を設置するとともに、庁内各所管の職員が参集し、情報伝達及び指示・命令系統の検証と、避難所となった大岱小学校との伝達訓練を行うなど、実践に即した態勢での訓練を実施する。今回の訓練成果を、現在策定中の地域防災計画に活かし、整合を図っていく。

各部の次長には8月11日に説明会を行った。理事者、各部長の役割分担を説明する。

職員の参集は代表参加である。9時にいきいきプラザ前に職員参集である。天気がよければ本庁舎といきいきプラザの間の中庭に集合する。服装は防災服と安全靴で願います。各部長は、その後マルチメディアホールの対策本部に入る。マルチメディアホールといきいきの1階に各部の対策本部を位置付ける。本来は、いきいき1階や本庁舎についてはマルチメディアの1階に集合する。次長は、新規購入したMCA無線機を持ち、本部とやりとりする。本部とのやりとりは各次長である。本来は防災事務局だが、皆、大岱小に行くため、総務部と経営政策に要請している。無線を持った課長が部長からの指示を受ける。それを市長に報告し、市長から指示するというシミュレーションを行う。当日までに再度見直していただき、わかりにくいところがあれば整理する。

9時10分にマルチメディアに移動し、10時30分頃までの予定で被災の報告や対応を指示し、事務局から次長に報告する。10時30分に本部訓練は終了する予定で、大岱小学校に移動する。そこでは地域の皆さんと各所管による訓練を行っている。それらを少し見ることになり、12時前に閉会式がある。その前にバケツリレーと第4分団の壮行演技を披露してもらおう。関係所管と計画しているが、今回は若干、盛り沢山にシミュレートしている。

V 閉会

以上